

# と ネットワーク



△静岡の自然100選にも選ばれた浮島ヶ原



## 豊かな自然環境と 快適な田園文化のまち 浮島

各公民館単位で地域の問題を紹介してきた「まちかどネットワーク」も今回で市内を一回りしました。来年2月から、スタイルを変えた「まちかどネットワーク」をお送りします。これからも、皆さんの身近な話題、ご意見などをお寄せください。連絡先…市内永田町1-100 市広報広聴課 ☎51-0123 内線2823 締め切りは毎月15日です。

浮島地区は、富士市の最も東に位置し、昭和三十一年駿東郡原町から分離して、当時の吉原市に合併した典型的な農村地域です。地区内には縄文時代の場遺跡や船津古墳群などがあり、早くから開けた土地です。

今日見られる南部の水田地帯は、浮島沼を開墾してできた地で、昭和三十二年から三十六年にかけての区画整理事業で碁盤の目のように整備されました。

また、東名から北は、なだらかな丘陵地帯で、茶畑が広がり静かな農村地域です。

住民は、根方街道沿いと春山川の扇状地に集落を形成しています。が、地区の人口はここ数年あまり変化はありません。

こうした中で、若い労働力が他産業に流出するため、農業労働力は高齢化傾向にあり、後継者問題が生じています。

一方、人家の密集している地域では、道路など生活環境の充実が望まれる地区でもあります。



△写真左から一穂さん、恭子さん、信太君、利之さん、裕人君



### いだてん一家

浮島町一 高木さん一家



十月十日・体育の日に行われた体力づくり市民大会。高木さん一家は、ことし初めて競技種目となった家族対抗リレーで優勝しました。今回は、いだてん高木さんファミリーにおじゃましました。

「ねえ、家族対抗リレーに出ようよ」と、言い出しっぺはお母さんの恭子さん(三十七歳)。全員がスポーツマンの高木さんちですから一つ返事で出場が決まりました。お父さんの利之さん(四十五歳)は、「ふだん夜十一時前には帰宅したことがない」という仕事の虫。かつてはバレーボールの選手として鳴りましたが、現在はたまにママさんバレーの臨時コーチをする程度。スポーツとは縁遠い毎日にもかかわらず、見事トップでゴールを駆けぬけました。

優勝の原動力となったのは、長男の裕人君(東小六年)と次男の信太君(同三年)。二人共小さいころから運動会ではいつも一番。特に、裕人君は十月二十五日に行われた市内陸上大会の百メートルの部で優勝するなど、ずば抜けた走力を持っています。

年齢制限で出場できませんでしたが、長女の一穂さん(須津中二年)も、マラソンなど持久力では弟に負けません。

今回のリレーはぶつつけ本番。バトンタッチもスムーズでした。「バトンタッチは家族の和のあらわれかな。夫婦げんかをしないのが、明るい家族につながっていると思うよ」と利之さん。一番の勝因は家庭円満にあったようです。



新幹線新富士駅の開業に合わせ  
新銘菓を開発



来春の新幹線新富士駅の開業に  
合わせて、富士市を代表するお菓  
子がつくられます。  
これは、富士市観光土産品促進  
交流会の中の統一銘菓開発委員会  
に属する十二のお菓子屋さん共  
同開発したもので、若林さんはそ

わか ばやし さとし  
**若林 智さん**

鷹岡本町2(40歳)

「素材の持ち味を生かし、本当  
においしいといわれることに重点  
を置いた」という自信作です。  
「お菓子を通して富士の文化・  
産業を紹介し、社会に少しでも貢  
献できれば…」と考えるフアイト  
マン。周囲からは「年の割には気  
が練れている」という声も。  
これからの心配は、売れゆき。  
「皆さん、どうぞよろしく」と  
マーシャルも忘れませんでした。

# まぢか

## 我がまちを語る



**高橋久男さん**

浮島町1(77歳)

**純朴で人情に厚い人々**  
私が子供のころの浮島は專業農  
家ばかりで、人々の生活は随分大  
変でした。  
浮島沼は腰までつかって田植え  
をするようなところがあり、台風  
が来ると湖となって、その水が引  
くと稲は株さら流れていくような

状態でした。笑い話のようですが、  
台風が去ると稲が移動し、隣の田  
んぼの稲になってしまったという  
こともあったくらいです。ですから、  
米がまともに収穫できたのは三年  
に一度ぐらいでした。  
このように農業中心の生活から  
培われた人々の人柄は純朴で、人  
情に厚く、隣近所のつきあいを大  
切にする風土があります。  
また、新興住宅地などが無いの  
で、住んでいる人があまり変わら  
ないのも特徴の一つです。  
将来は自然環境と昔からの人情  
を保ちながら、会社や住宅をふや  
し、もう少し活気のあるまちにな  
ればと考えています。

の委員長を務めています。

昨年四月から、作業に入り、こ  
としの四月には菓子の名前を広く  
市民に募集。その結果「月の都の  
姉妹都市」という総称で、「富士  
名水」(水ようかん)、「富士の舞  
姫」(パイ)、「かくや餅」(もち)  
という三つのお菓子ができました。

## あの人この人こんなこと



青空市へいらっしやい

鈴木晶項さん(浮島町)

沼津線沿い、東公民館の西方に  
毎週土曜日の夕方、市が立ちます。  
浮島青空市といい、地場産の野菜  
くだものなどが豊富に並べられま  
す。運営しているのは地域の農家  
十軒。鈴木さんはその実行委員長  
です。「野菜はその日の朝とった  
新鮮なもので、値段も格安。三島  
や沼津から来る人もあるよ」と張  
り切っています。



茶摘みうたを伝える

藤井志んさん  
(浮島町三)

高木とらさん  
(浮島町二)

浮島地区はお茶どころとしても  
有名。茶農家に生まれ育った藤井  
さんと高木さんは、今は知る人も  
ない茶摘みうたと茶もみうたの伝  
承者です。二人共、幼いときに聞  
いたうたを覚えていたもので、歌  
うと昔を思い出し、昔話に花が咲  
くとか。老人会ではほかの人も覚  
え、東小の児童の前で披露したこ  
ともあります。



焼き芋大会  
東小学校

十一月二十六日に東小学校で浮  
島まつりが行われました。これは、  
子供たちが六月に植えて育てたサ  
ツマイモの焼き芋大会です。  
芋は一人に二つ三つ行き渡り、  
収穫を実感した子供たちは大満足。  
また、焼いている間も、子ども  
たちは手づくりの竹や布・紙のお  
もちゃのお店を出したり、歌やゲ  
ームを楽しみました。

